

甲州市 后畑西遺跡

遺跡調査現地説明会
平成28年3月5日(土) 10:00~

所在地 甲州市塩山下於曾・熊野地内
調査原因 市道下塩後22号線建設
主催 甲州市教育委員会
協力・調査担当 昭和測量(株)文化財調査課

調査の成果

A地区:平安時代の竪穴建物19軒、土坑など
B地区:平安時代の竪穴建物26軒、土坑など

后畑西遺跡では平安時代を通じて営まれていたと考えられる大規模な集落がみつかりました。竪穴建物の数はA地区で19軒、今回の調査区(B地区)では26軒にのぼります。

B地区では複数の竪穴建物が上下に重なってみつかりました。調査区の南西部分では7軒もの竪穴建物が複雑に重なっています。

竪穴建物の形状は全て方形です。大きさは一辺が約4mのものを中心として、一辺が約3mと比較的小規模な建物も複数みつかりました。建物の多くに付属するつくりつけのカマドは建物の北側中央付近に位置するもの、東側中央付近に位置するもの、南東コーナー部に位置するものとさまざまです。

遺物は土師器の坏・カメ・羽ガマなどの日用道具が多く出土しており、他に須恵器、灰釉陶器なども出土しています。A地区ではつくりつけのカマドの上から「置きカマド」という持ち運び可能なカマドが羽ガマとセットで出土しています。

后畑西遺跡では、これらの建物の重なりや特徴、出土する土器から推定される時期に新旧が確認されることから、平安時代の長い期間を通じて集落が営まれていたことがわかりました。

またB地区の東側の調査では幅5mほどの溝と幅15mほどの深い谷がみつかりました。竪穴建物はこの溝や谷を境として、西側に集中してみつかりしていることから、后畑西遺跡の集落の東側の境界までが今回の調査で明らかになったということになります。



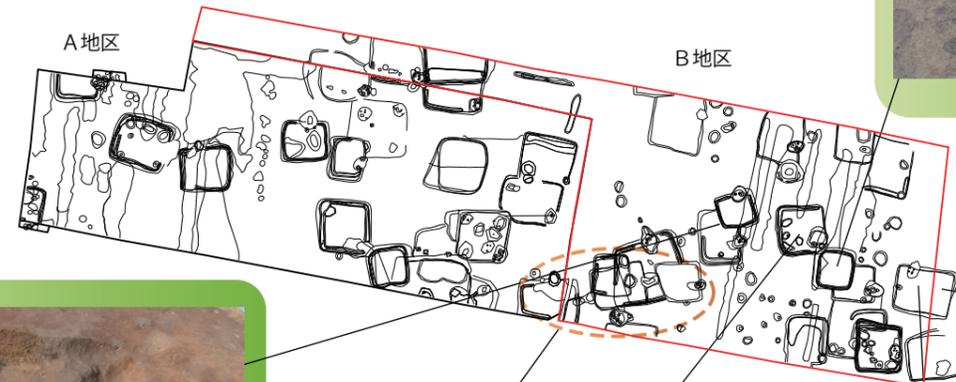
后畑西遺跡B地区全景
南から



竪穴建物 遺物出土状況



竪穴建物 遺物出土状況



7軒重なりあう竪穴建物



2軒重なりあう竪穴建物



3軒重なりあう竪穴建物



竪穴建物 カマド